

コーヒー豆の粕の再利用

コッペパン：鈴木 里奈 鎌形 真理沙 チョウ カ クワイ 高瀬 雄希

1.研究動機

近年、ごみ処理場の許容量が限界を超える恐れがある、CO₂の排出による環境悪化など様々な事柄を背景に、公私企業や一般家庭においても環境に配慮した取組みが注目され、また、行われている。他方、2013年においては、日経トレンディの「ヒット商品ベスト30」でコンビニエンスストアのコーヒーが1位に選ばれるなど、コーヒー市場が熱くなった年だった。しかし、市場が拡大するということは、その分消費されたものからの廃棄物が増えるということである。そこで私たちは環境への配慮と経済活動を両立させる方法はないかを探ることとした。

2.コーヒー豆の粕の実態

コーヒーを、コーヒーの豆から提供するコンビニエンスストア各社と一部ファミリーレストランにおいては、一店舗辺りの年間のコーヒー豆の粕の廃棄量は100kgを超えていたが、廃棄に関して特に対策は行わず、そのまま捨てていた。しかし、コーヒー豆のカスには消臭・防虫・肌の古い角質を剥がすスクラブとしての機能など様々な効果があることが分かった。そこで、コーヒー豆のカスを再利用する上で、豆のカスの効果を最大限に発揮しつつ、環境への負荷が最も少ない方法は何かを調査した。その結果、コーヒー豆の粕を固形石鹼に混ぜ、足を洗う石鹼として利用する方法を見つけた。

3.提案内容

コーヒーの豆粕で作られる足用石鹼の特徴に関して調査とインターネット上でのアンケートを行った結果、足の臭いを気にする、そして豆粕で作られた足用石鹼を使ってみたいというユーザーになりえる存在が見られたことや、既存の足用石鹼よりも低価格で、且つ固形石鹼に消費者が求める価格で対応し、量産できることが分かったため、豆のカスを足用石鹼に活用するという事は十分に可能であると判断した。

そこで、私たちはコーヒー豆を用いてコーヒーを提供するコンビニエンスストアやファミリーレストランと、固形の石鹼の製造を行うメーカーに、上記の企業から廃棄されたコーヒーの豆カスを再利用した足用石鹼を生産することを提案することとした。

内容を簡潔に述べると、コンビニエンスストアやファミリーレストランから廃棄されたコーヒー豆の粕を、コンビニエンスストアの流通網を活用して石鹼メーカーに運び、製造された足用石鹼を再び流通網に乗せ、コンビニエンスストアにおいて販売するというものである。